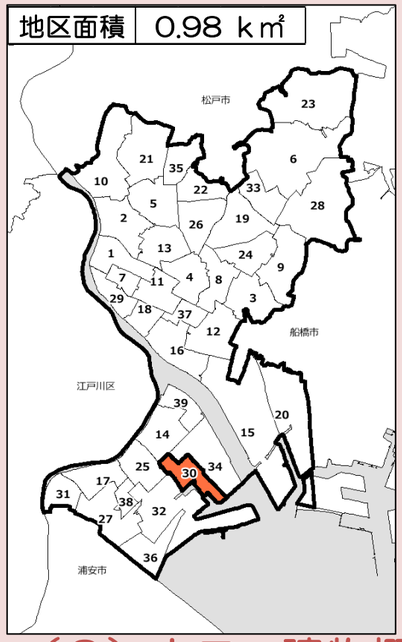
30 幸小学校区

（1）位置

地区面積 0.98 ｋ㎡



（2）地区概況

◆位置

幸小学校区は市の南部に位置し、地区の南側は東京湾に面しており、市川水路があります。

◆地形・土地利用

地形は、主に埋立地・盛土地で構成されており、平坦な低地となっています。

地区の北側は第一種中高層住居地域等の住宅地となっており、マンション等が多く建ち並んでいます。地区の南側は工業専用地域となっており、多数の工場が立地しています。

◆都市基盤

地区内の北側は、土地区画整理事業により整備されています。地区の南側には首都高速湾岸線及び湾岸道路が通っています。

また、地区内には、東西線行徳駅、妙典駅、京葉線市川塩浜駅行きの京成トランジットバスが通っています。

（3）人口・建物概況

◆人口

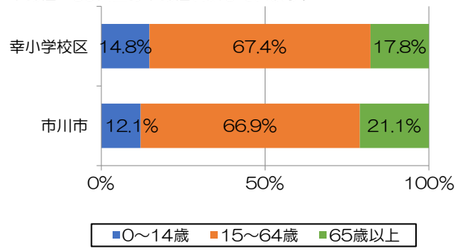
年齢別割合

	幸小学校区	市川市	割合※
人口総数	15,417人	487,621人	3.2%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値	12,503人

平均値：39地区の平均値を示しています。



地区の人口は、全地区の平均人口よりやや多いです。また、市全体と比較すると15～64歳の割合がやや高く、若い世代がやや多い地区となっています。

◆建物

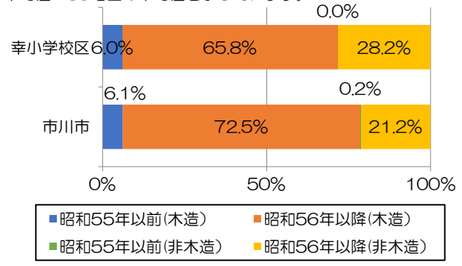
構造別割合

	幸小学校区	市川市	割合※
建物総数	1,817 棟	114,958 棟	1.6%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値	2,948棟

平均値：39地区の平均値を示しています。

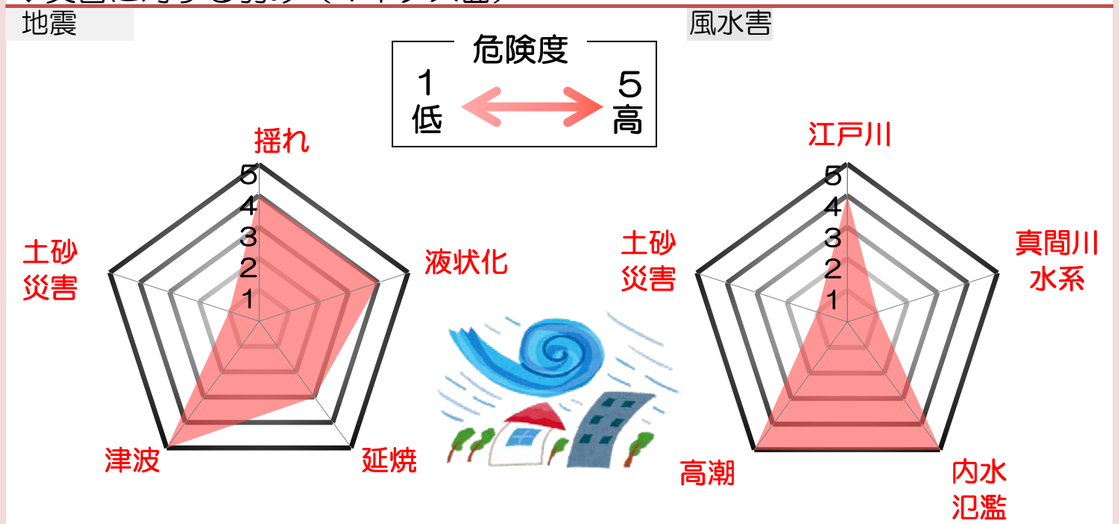


地区の建物は、全地区の平均棟数より少ないです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合がやや高いです。また、非木造建物がやや多い地区となっています。

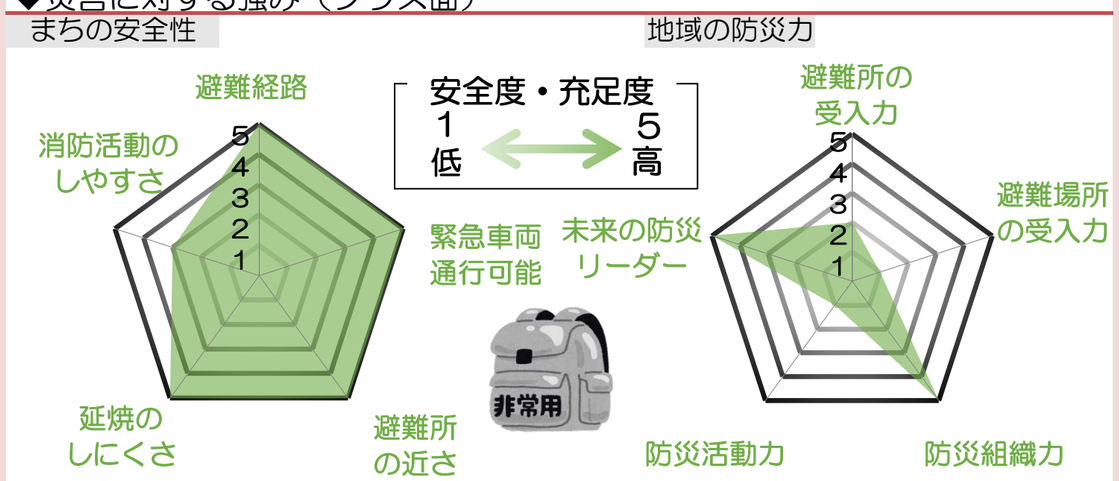
（4）災害リスク評価

災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。なお、危険性がない場合でも1となります。

◆災害に対する弱み（マイナス面）



◆災害に対する強み（プラス面）



◆評価

幸小学校区は、地震災害については、最大震度6強の揺れが予測され、揺れや液状化、津波による危険性が高い傾向にあります。また、風水害については、近くに江戸川が流れていることから、江戸川の氾濫による浸水の危険性、低地であることから内水氾濫の危険性、東京湾に面していることから、高潮の危険性が高い傾向にあります。

一方で、まちの安全性については、評価項目について総じて高い傾向にあります。また、地域の防災力については、防災組織力は高い傾向にあるものの、避難所・避難場所の受入力及び防災活動力は低い傾向にあります。

（5）防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
幸小学校	－		
幸公民館	○		

◆避難場所

名称
幸小学校
行徳南部公園

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設(公設)	なし		医療救護所	なし
			関連施設	なし
			－	
			－	
			－	

要配慮者利用施設（民設）
11

※要配慮者利用施設は浸水想定区域内に立地する施設を示しています。

（6）被害想定結果（地震・風水害）

◆地震災害（被害を受ける割合）

	想定項目	幸小学校区	市川市全体
建物被害	全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	4.9%	3.3%
	半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	20.5%	15.6%
	焼失棟数の割合	0.8%	5.5%
	浸水棟数（津波）の割合	0.8%	1.0%
人的被害	死者の割合	0.1%	0.1%
	負傷者の割合	9.7%	7.3%
	避難者の割合	0.9%	0.9%

◆風水害（被害を受ける割合）

	想定項目	幸小学校区	市川市全体
建物被害	浸水棟数（江戸川）の割合	94.2%	52.0%
	浸水棟数（真間川）の割合	0.0%	13.6%
	浸水棟数（内水）の割合	75.5%	20.5%
	浸水棟数（高潮）の割合	41.8%	1.5%

市全体の結果と比較すると、地震災害については、強い揺れや液状化の影響もあり、建物被害はやや多い傾向となっています。また、人的被害については、死者及び避難者はほぼ同程度ですが、負傷者については、市全体よりやや多くなっています。
一方で、風水害については、江戸川の氾濫、内水氾濫、高潮による影響が大きくなっており、市全体と比較して浸水棟数も多くなっています。

（7）防災上の課題

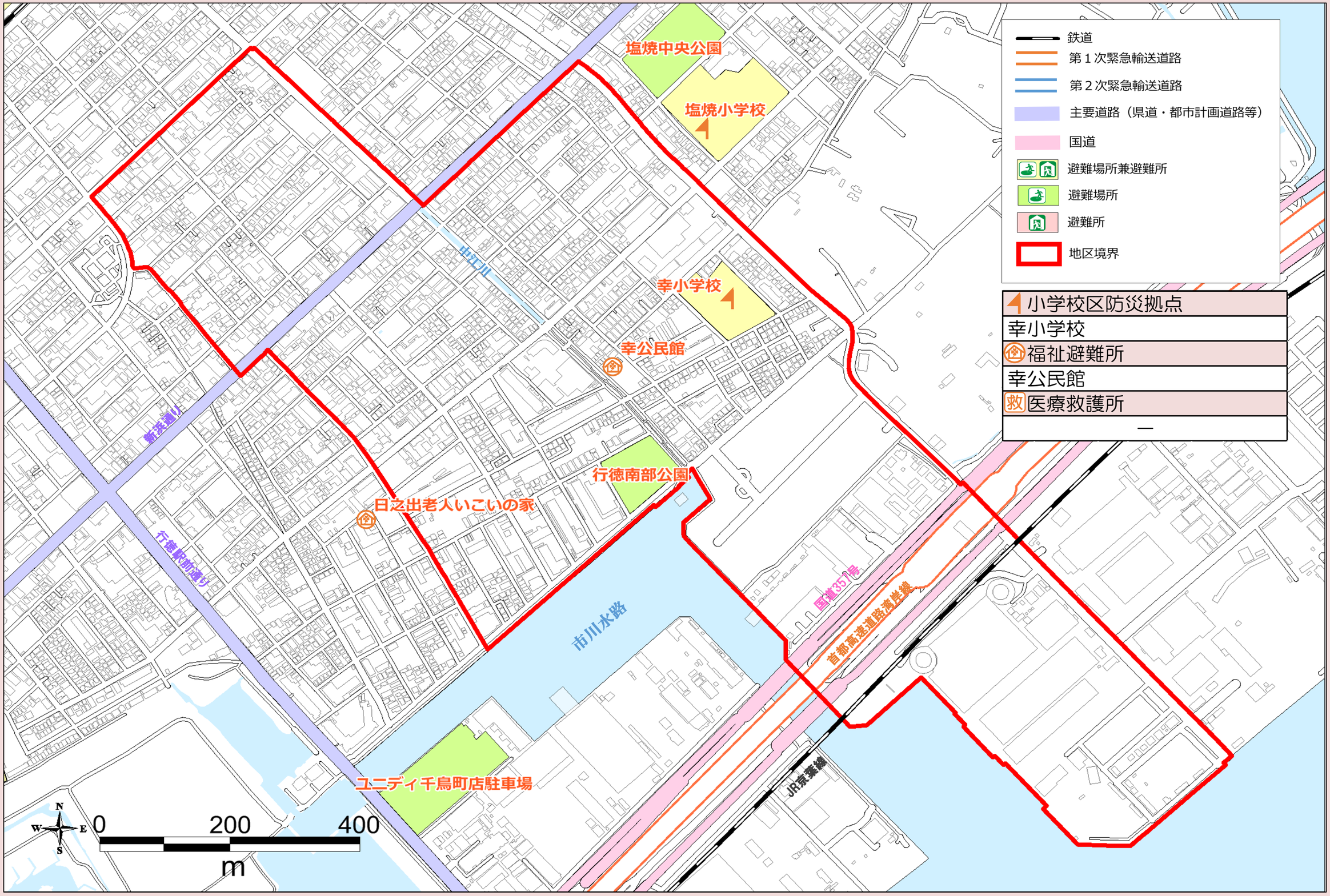
項目	課題
地震	地区のほとんどの地域で、最大震度6強の強い揺れが予測され、揺れや液状化、津波による浸水の危険性が高いことから、耐震対策やライフライン途絶に備えた家庭での備蓄対策、津波避難対策が重要です。
風水害	地区の近くに江戸川が流れていることによる浸水被害、低地であることによる内水氾濫、南側に東京湾が面していることによる高潮の浸水被害の恐れがあり、浸水対策や円滑な避難に対する備えが重要です。
まちの安全性	まちの安全性は総じて高い傾向にありますが、地区内に水利施設が少ないところも見受けられ、消防活動がしにくいところもあることから、初期消火対策等が重要です。
地域の防災力	地区内では、避難所・避難場所の充足度が低いことから、住宅での避難や地区外ので避難に備えることが重要です。

（8）防災対策の方向性

項目	取組の方向性
地域の取組	地区内には、消防水利施設が少ないところも見受けられ、消防活動がしにくいところもあることから、災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、高い防災組織力を活かし、地域で初期対応の訓練を実施するなどの対策が効果的です。 地区内の防災活動力が低いことから、地域で積極的に防災教育のイベント等への参加行い、地区内の防災リーダーの育成を進めていくことが必要です。 地区の避難場所の収容人数に対する地区の人口の割合が多いことから、避難場所の充足度は低い傾向にあります。よって、近隣地区の避難場所等も確認し、あらかじめ地区の中で避難する場所の情報共有を行うことが重要です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、市の助成制度である「耐震改修助成制度」を利用した耐震改修工事による自宅の耐震化対策や、「あんしん住宅助成」を利用した感震ブレーカーの設置、家庭内での水や食糧の備蓄をするなど、自宅（家庭）の防災性を向上させることが効果的です。 一方、風水害に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置、土のうステーション等を利用した土のうの設置による浸水対策や、円滑に避難できるよう市からの情報収集方法や、浸水想定区域外での避難場所等をあらかじめ洪水ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。 避難経路の確保ができない可能性が考えられることから、まちあるき等を通して避難経路についてあらかじめ決めておくことが必要です。

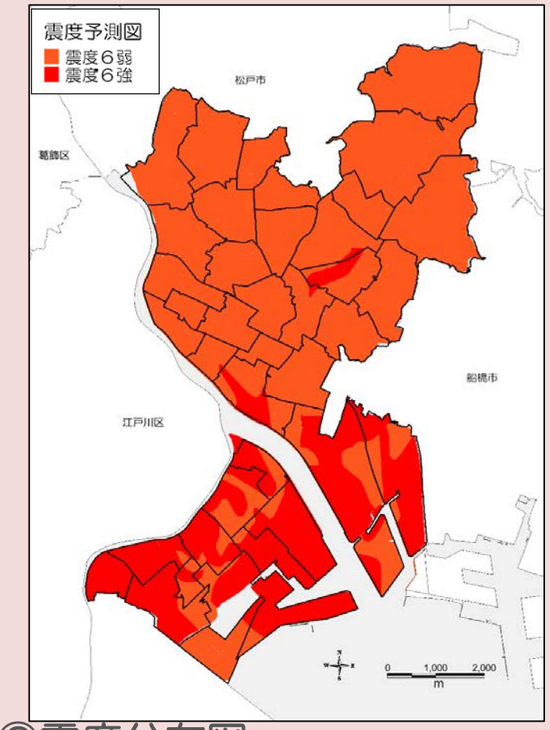
（9）防災マップ

市川市防災カルテ ＜ 幸小学校区 ＞



（１０）基礎資料

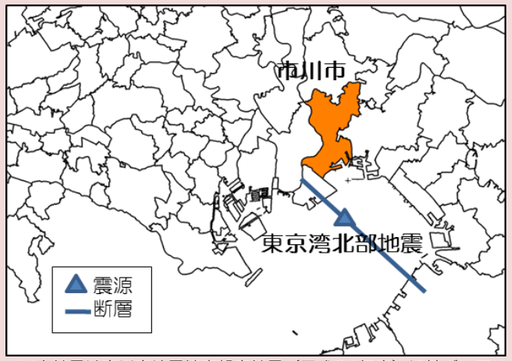
①市全域の震度分布図



本カルテには、東京湾北部を震源域とする地震が発生した場合の結果です。
震度分布図を見ると、市の北部は震度6弱、南部は震度６強と予測されています。

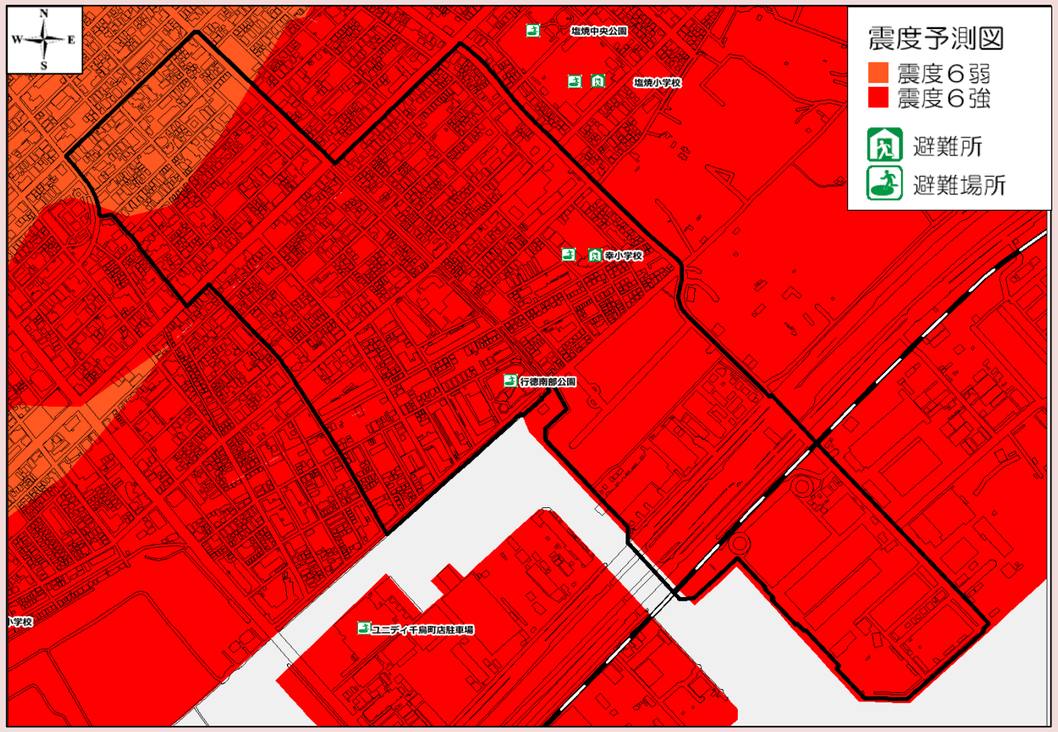
想定地震	東京湾北部地震
マグニチュード	7.3 （震源深さ：20km程度）

▼震源

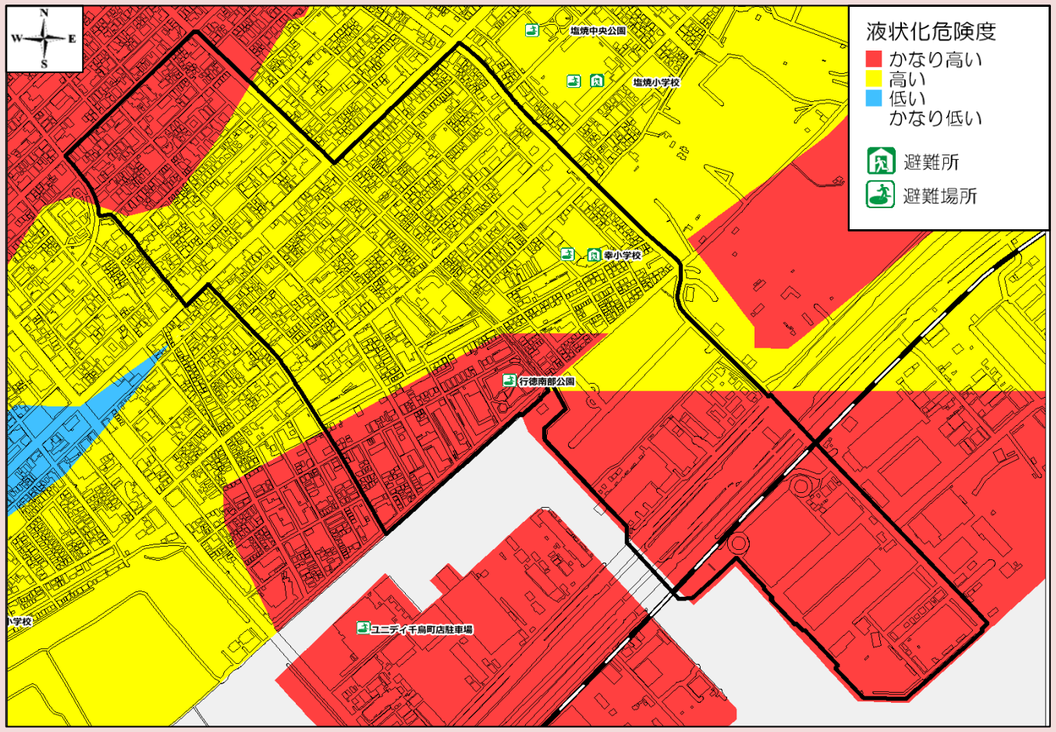


※本結果は市川市地震被害想定結果（平成24年度）に基づいています。

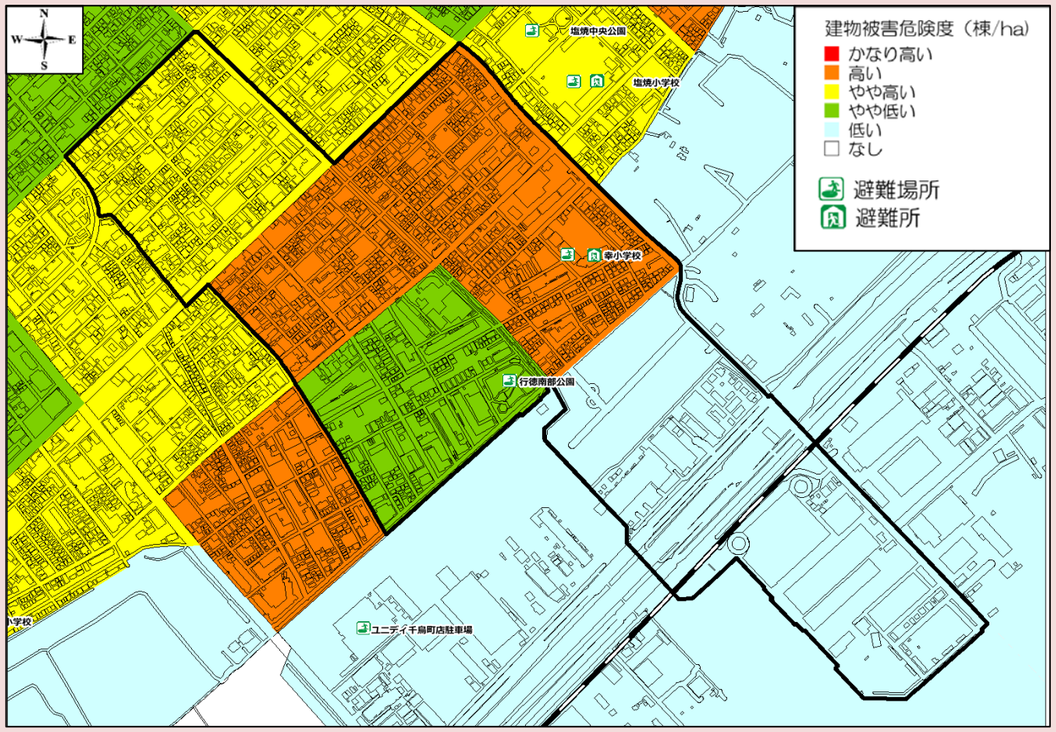
②震度分布図



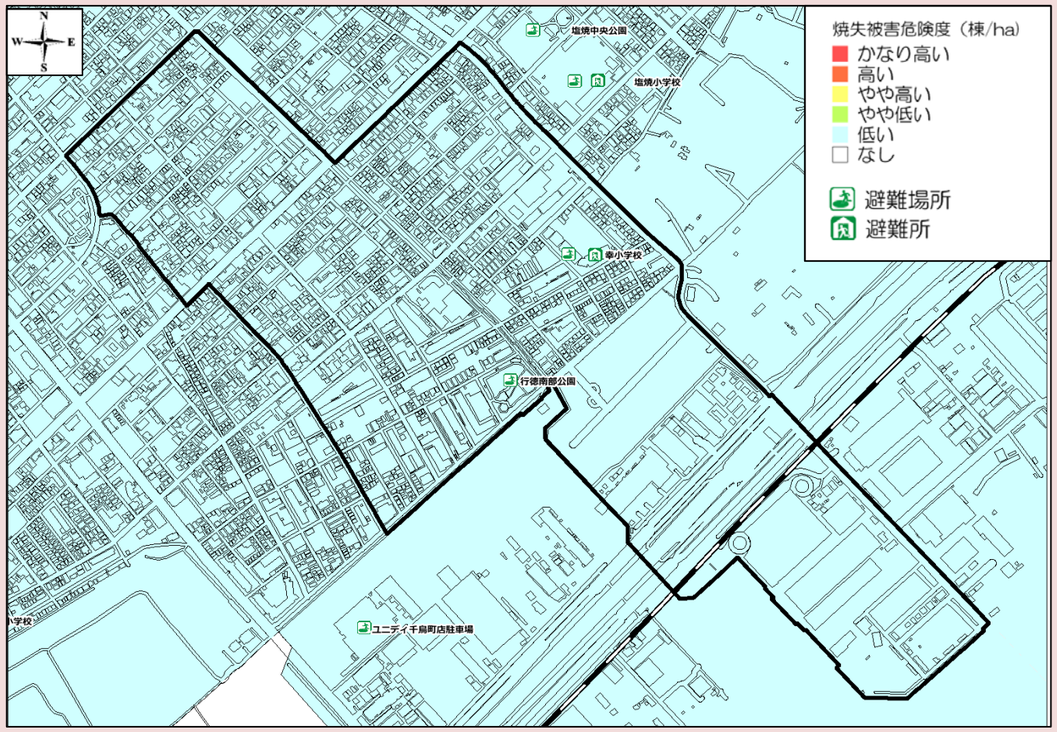
③液状化危険度



④建物被害（揺れ・液状化による被害）



⑤建物被害（延焼による被害）



⑦浸水想定の概要

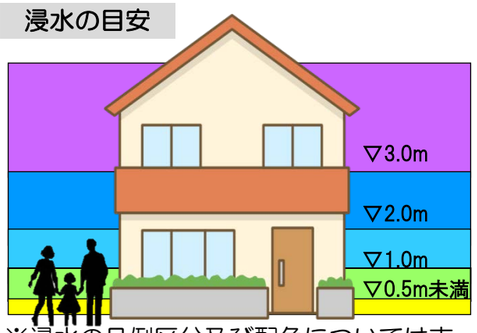
江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。

災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ近隣の避難所及び避難場所について確認しましょう。

また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

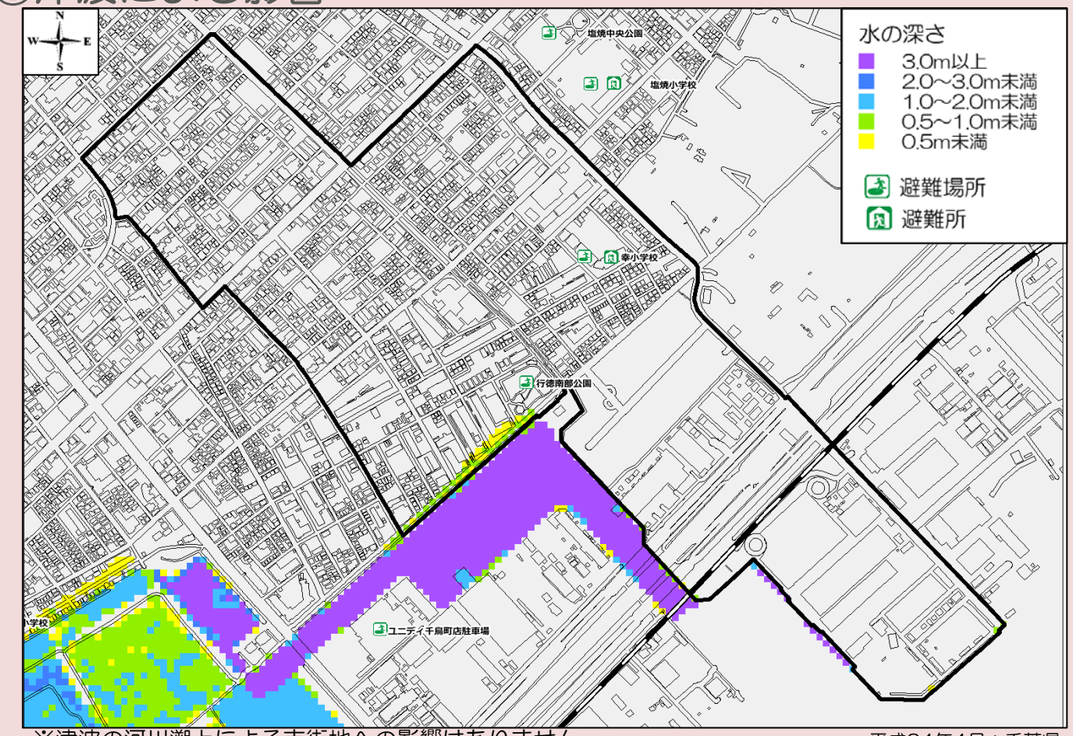
水の深さ
- 水の深さが3.0m以上
- 水の深さが2.0～3.0m未満
- 水の深さが1.0～2.0m未満
- 水の深さが0.5～1.0m未満
- 水の深さが0.5m未満

浸水の目安



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

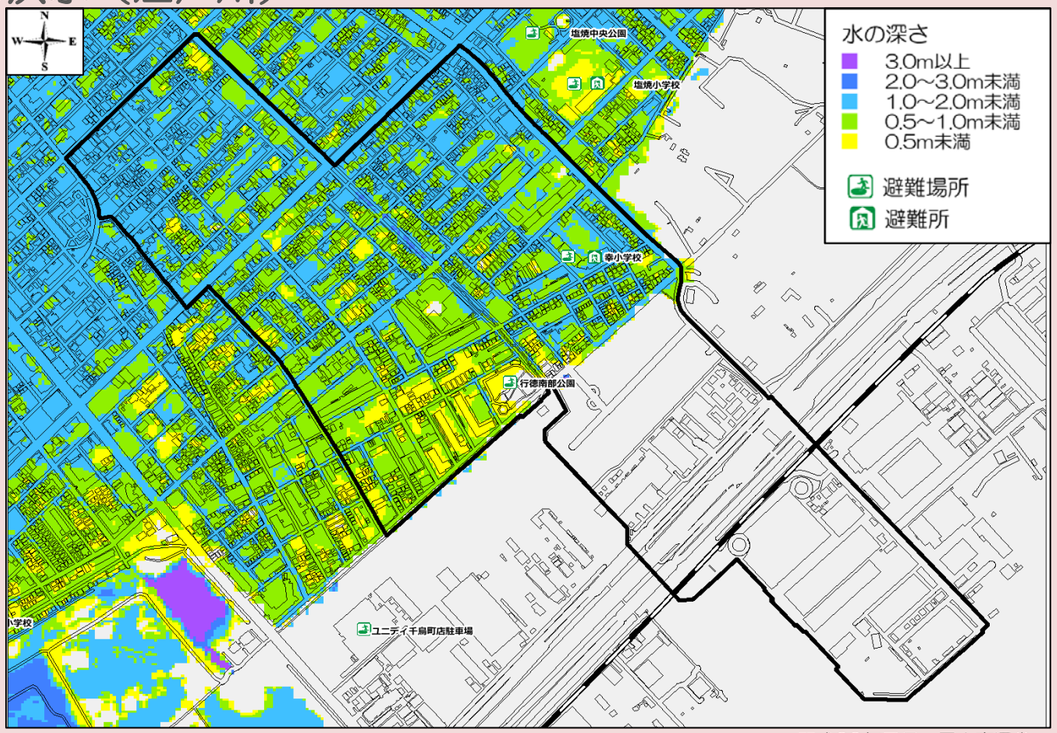
⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

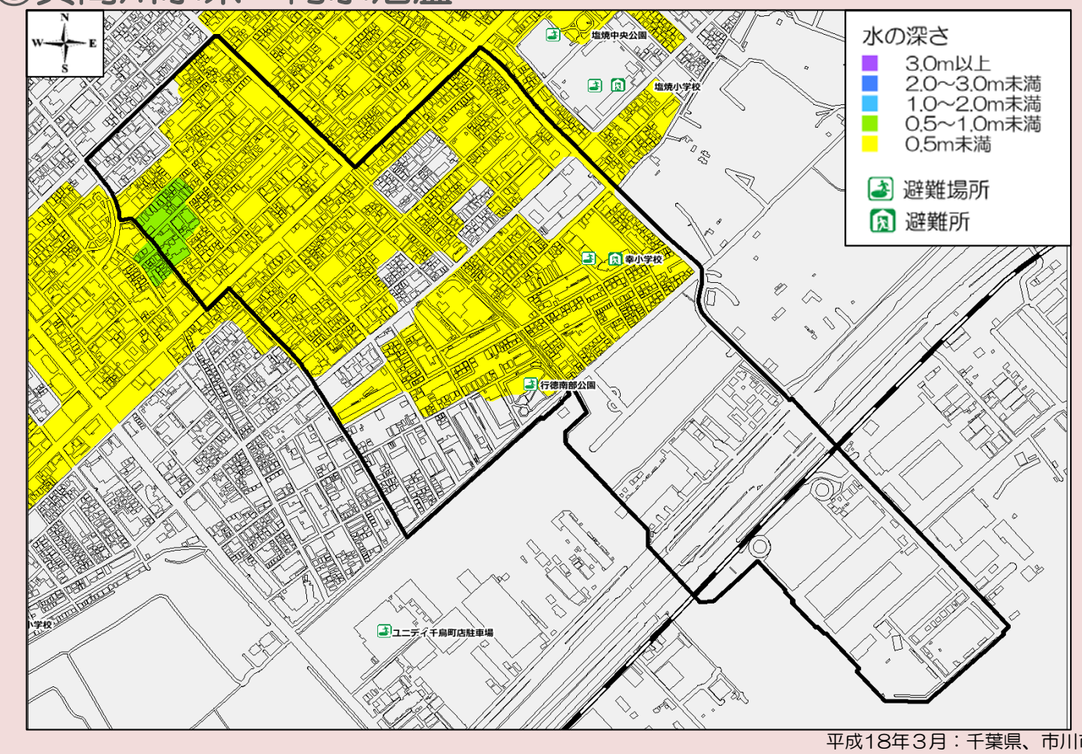
平成24年4月：千葉県

⑧洪水（江戸川）



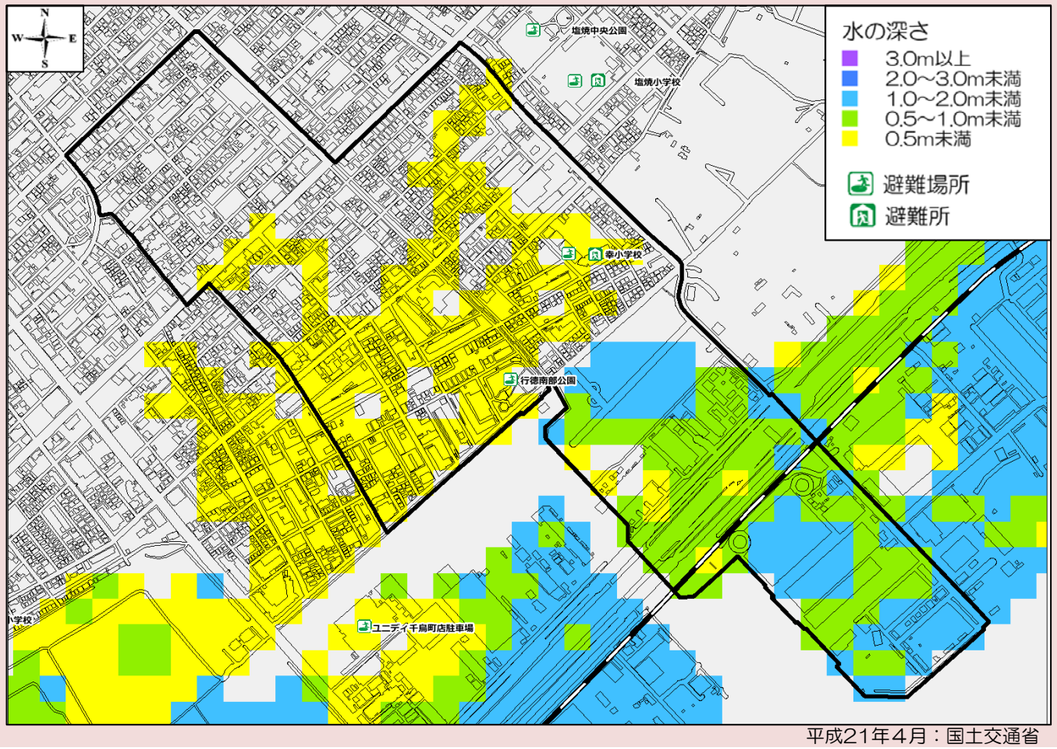
平成29年7月：国土交通省

⑨真間川水系・内水氾濫



平成18年3月：千葉県、市川市

⑩高潮



平成21年4月：国土交通省

◆メモ